九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第7巻 : 部局史編 IV

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801803

出版情報：九州大学百年史. 7, 2017-03-31. 九州大学
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

第 73 編

国 際 交 流 推 進 室

第 1 章　創設の経緯

九州大学では、「九州大学の改革の大綱案」（1995 年 3 月）において、国際的連携の強化を大学改革の重要課題の 1 つと位置づけ、国際交流・連携活動を戦略的・機動的に推進する方策について検討を重ね、さまざまな改善・改革を進めた。この流れの中で、2001（平成 13）年 7 月、九州大学の運営に関する重要課題を審議する企画専門委員会において、国際交流に関する全学の組織や活動を把握・統括する中核組織の設置が提言された。これを受けて、国際交流組織の全面的な見直しを行い、2002 年 4 月に「国際交流推進機構」（機構長：総長）を設置するとともに、九州大学の国際交流に関する基本方針を策定する国際交流委員会（委員長：総長）の再整備を行った。

国際交流推進機構は、九州大学における国際交流関係組織の運営体制を強化し、一元的に国際交流活動を促進することを目的として、留学生センター・アジア総合研究センター・韓国研究センター・国際交流推進室の 4 つの実施組織から構成された。

この中にあって国際交流推進室は、戦略的国際交流プロジェクトの策定・実施等をその任務として設置された。

設置当時、総長特別補佐（大学院法学研究院・柳原正治教授）を室長とし、副室長、室員（教官 3 名・事務職員 5 名）および協力教官 14 名を配置し、九州大学における戦略的国際交流プロジェクトの策定・実施とともに、国際交流推進機構を構成する各組織間の調整を行い、同機構を機能的・機動的に運営する役割を担った。また、国際交流推進室は国際交流関係事務を担当していた組織（総務部国際交流課、学務部留学生課）とも密接な連携を保って業務を遂行した。推進室の目的・業務は規程中に以下のように定められている。

九州大学国際交流推進室規程（抜粋）

2002 年 4 月 1 日制定

（目的）

第 2 条　推進室は、九州大学が行う国際交流の推進を支援することを目的とする。

（業務）

第 3 条　推進室は、次に掲げる事項に関する具体的業務を行う。

一　国際交流の将来戦略原案の策定

二　研究者・学生交流（受入れおよび派遣）の推進

三　大学間交流協定校等とのネットワークポイントの構築

四　外国人留学生（学部生）の短期留学プログラム、UMAP リーダーズ・プログラム〔ULP〕等の企画推進

五　アジア学長会議等の開催

六　国際交流の推進に係る情報の収集および提供

第 2 章　沿　革

2002 年度　国際交流推進機構設置（4 月）
国際交流推進室設置（4 月）
第 3 回アジア学長会議を釜山大学校において開催

2003 年度　第 4 回アジア学長会議をチュラロンコン大学において開催
Asia in Today's World（ATW）（ULP を改編）を開始
学生の短期語学研修（英語）The 21st Century Challenges in Living Abroad Program, English（CLP-E）を実施（～2005 年度）

2004 年度　第 5 回アジア学長会議を九州大学において開催
Asian Student Exchange Program（ASEP）を開始
ロンドン・カリフォルニア・ミュンヘン・ソウルに海外オフィスを開設
ソウル大学校内ブランチオフィスを開設
学生の短期語学研修（中国語・韓国語）　The 21st Century Challenges in Living Abroad Program, Chinese（CLP-C）, 同 Korean（CLP-K）を開始

2005 年度　ガジャマダ大学内ブランチオフィスを開設
九州大学アジア総合政策センターを設立

2006 年度　第 6 回アジア学長会議を上海交通大学において開催
北京に海外オフィスを開設

2007 年度　第 2 回大学サミット・イン・九州を九州大学において開催
シリコンバレー英語研修（SVEP）を開始
マヒドン大学との教育交流プログラムを開始

ワシントン DC に海外オフィスを開設
マヒドン大学内ブランチオフィスを開設
ソウル大学校学生のための日本語上級集中プログラム（受託事業）を開始

2008 年度　第 7 回アジア学長会議を台湾大学において開催
ASEAN in Today's World（AsTW）を開始

2009 年度　カイロに海外オフィス（海外大学共同利用事務所）を開設
ハノイ・バンコク・台北に海外オフィスを開設

2011 年度　第 8 回アジア学長会議をインドネシア大学において開催
ソウル大学校内ブランチオフィスを閉鎖
九州大学 EU センターおよび EU インスティテュート・イン・ジャパン九州（EUIJ 九州）を設立

2014 年度　バンコクオフィスを閉鎖

2015 年度　第 9 回日中学長会議を九州大学において開催
SOAS 日本語集中プログラムを開始

第 3 章　主な業績

第 1 節　国際会議

国際交流推進室が実施した国際会議を以下に記す。

(1) アジア学長会議

アジア学長会議は、グローバル化の中でのアジアの存在意義についての問題意識を共有し、アジアの中での九州大学の役割、21 世紀のアジアの発展に貢献するための、国境を越えた産官学のネットワーク構築を目的として実施した。アジアの諸大学の学長が集い、各大学が直面する課題について率直に意見交換し、また、共同研究、単位互換、学生交流、研究者養成プログラムの実施、共通カリキュラムの開発等、教育・研究の両面から交流を促進するために具体的テーマを掲げ、協議を行った。

九州大学が、アジアのネットワーク構築とアジア総合研究の推進を行っていくために、この会議は大きな役割を担い、九州大学のアジア重視戦略の具体化に向けた提案の場であるとともに、貴重な情報交換と信頼感醸成の場となった。

(2) 大学サミット・イン・九州

九州大学が、世界 7 か国 8 大学に呼びかけ、個々の大学が個別に模索している多くの共通課題を議論し、知的存在感のある大学を目指した提言を行うことを目的として開催した会合。2000（平成 12）年および 2007 年に九州大

学で実施した。

過去の参加大学一覧

（2001 年）清華大学、ロベール・シューマン大学、ミュンヘン大学、釜山大学校、ソウル大学校、タマサート大学、グラスゴー大学、ミシガン大学

（2007 年）上海交通大学、ソウル大学校、インド工科大学マドラス校、ガジャマダ大学、テヘラン大学、ミュンヘン大学、サンクトペテルブルク大学、チュラロンコン大学、ミシガン大学、サンパウロ大学、早稲田大学

第 2 節　プログラム

国際交流推進室が実施した主なプログラムを以下に記す。

（1）大学サミット・イン・九州およびアジア学長会議をもとに実施した事業・プログラム

ネットワーク・ポイント

ネットワーク･ポイントは、大学間相互にオフィスを設置し、相互の研究・交流の拠点とすることを目指したもので、2001（平成 13）年に九州大学主催で実施した｢第 2 回アジア学長会議｣において九州大学が提唱し、複数大学と覚書（MOU）を締結した。

海外拠点

ネットワーク･ポイントを発展させると同時に､欧米へも拠点を拡大した。2004（平成 16）年度にロンドン・カリフォルニア・ミュンヘン・ソウルに海外オフィスを、また、ソウル大学校内ブランチオフィスを開設して以降、ガジャマダ大学内ブランチオフィス（2005 年度)、北京（2006 年度)、マヒ

ドン大学内ブランチオフィス・ワシントン DC（2007 年度）、カイロ・ハノイ・バンコク・台北（2009 年度）を開設し、各国の情報収集や学生リクルート等の活動を実施している。

アジア学生交流プログラム（ASEP）

アジアの主要な大学との交換留学の促進、また単位互換をスムーズに行う制度の確立をめざして、2002（平成 14）年に釜山大学校主催で実施された「第 3 回アジア学長会議」において九州大学が提唱し、2004 年度からプログラムを開始した。ASEP では、九州大学から派遣される学生に対しても、九州大学へ受け入れる学生に対しても、滞在費または宿舎費が支給された。

ASEP 対象大学 :（タイ）マヒドン大学・タマサート大学、（中国）復旦大学・南京大学・香港大学、（韓国）釜山大学校・ソウル大学校

若手研究者優秀賞

2006（平成 18）年に上海交通大学主催で実施された「第 6 回アジア学長会議」において、アジアの若手研究者の研究奨励を目的とした「若手研究者優秀賞」をアジア学長会議の主催により設立することが同意された。優秀賞は、その高い学術性に裏付けられた研究の成果を収めたことを認め、若手研究者に授与したもので、2008 年に台湾大学主催で実施された「第 7 回アジア学長会議」において、人文社会科学部門優秀賞受賞者としてナンヤン工科大学の Tamara Silvia Wagner 助教授、自然科学部門優秀賞受賞者として南京大学の Bingcai Pan 教授を表彰した。

ASEAN in Today's World（AsTW）

ASEAN にフォーカスし、世界で活躍する次世代のアジアンブリッジの核となる人材の育成を目的として、2009（平成 21）年より ASEAN 地域の大学との教育交流プログラムを各大学において共同で実施している。平成 27

年までの共同実施大学は、マヒドン大学、アテネオ・デ・マニラ大学、ベトナム国家大学ハノイ校である。ASEAN 地域の言語・文化および ASEAN を中心とするアジア事情（ASEAN−東アジア事情、経済、食の安全、環境、異文化理解）に関する英語による専門科目を、ASEAN 側共同実施大学の教員と共同して開講する。対象者は九州大学と福岡女子大学、および ASEAN 地域の大学の学生としているが、その他の国・地域からの応募も可能としている。毎年、ASEAN 事務局の積極的関与を得て実施している。

Asia in Today's World（ATW）

文部科学省と UMAP（University Mobility in Asia and the Pacific：アジア太平洋大学交流機構）の推奨により、日本国内では九州大学と東京外国語大学の 2 校が、2001（平成 13）年度と 2002 年度に実施した国立大学初のサマーコース（UMAP リーダーズプログラム）を前身として、2003 年度から九州大学独自のコースとして実施している。

ATW は、アジア指向を標榜する九州大学が、アジアを中心とする留学生交流プログラムとして開発した国際サマープログラムである。また、アジア地域のみならず広く世界各国から留学生を受け入れ、日本を含むアジアに関する専門科目を開講することにより、世界的なアジア理解を深め、世界規模の学生交流の活性化を目的としている。2010 年度からは、福岡市五大学連携協定書に基づく単位互換対象科目としても開講している。

海外教育連携プログラム

・マヒドン

マヒドン大学と 2004（平成 16）年 2 月に締結したアジア学生交流プログラム（ASEP）の教員交流事業に基づき実施する交換授業および短期留学で、2007 年度より実施。相手大学へ派遣された教員（共に 1 名ずつ）が、相手大学において 1 週間の集中講義を実施する。使用言語は九大での授業は日本

語およびタイ語､マヒドン大学での授業は日本語および英語である｡その後、毎年、双方の学生（各 15 名）が相手大学において、言語や文化を学ぶための 2 週間の短期留学プログラムを併せて実施している。

・ソウル大学校学生のための日本語上級集中プログラム

ソウル大学校が選抜する日本語上級レベルの学生を対象に留学生センター日本語コースにおいて集中的な講義を施すプログラム。平成 19 年度より、ソウル大学校人文大学言語学科(平成 24 年度からは同アジア言語文明学科)からの受託事業として実施している。

アジア総合政策センター設立

アジア総合政策センターは各編の説明参照。

（2）その他の事業・プログラム

EU センター設立

「EUIJ 九州」の活動を主体的に推進する責任組織として、「九州大学 EU センター」を 2010（平成 22）年 12 月に設置し、2011 年 4 月から EUIJ 九州の活動を開始した（国際交流推進機構の説明参照)。

国際協力

九州大学においては、主に部局の教員を中心として国際協力活動に取り組んできた。以下、主な取組の一部を抜粋する。

・E-JUST（エジプト日本科学技術大学)

総括幹事校として参加している。また、電子・通信工学専攻における幹事校として、教員を現地へ長期派遣し、教育や教員養成等行うとともに、九州大学日本エジプト科学技術連携センター(E-JUST 連携センター)を設置し、E-JUST を推進してきた。

・MJIIT（マレーシア日本国際工科院）

九州大学では、国内支援大学（25 校）で構成されるコンソーシアムに参加し、「機械精密工学」専攻および「環境・グリーン技術工学」専攻のメンバー校として支援を行ってきた。

SOAS 日本語集中プログラム

ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）が選考の上派遣する参加学生に対し、留学生センター日本語コースにおいて集中的な講義を施すプログラム。参加学生は日本語能力に応じて中級・前半と中級・後半の 2 レベル・2 クラスに分かれ、各クラスとも週 4 日・5 週間、総計 100 時間の授業を受講する。2016（平成 27）年度より受託授業として実施している。

短期海外語学研修（学生対象）

・CLP

九大生が、将来的な留学のために、短期間の異文化体験を通して、留学への不安を解消し、かつ、語学力の向上を図ることを目的とした事業。中国語研修・韓国語研修ともに 2～3 月の各 3 週間、現地大学等で語学研修を実施する。

・SVEP

2007（平成 19）年度より、シリコンバレー英語研修（SVEP : Silicon Valley English Study Program）を 8 月～9 月の 4 週間、カリフォルニア・サンノゼ州立大学附属語学学校で行っている。毎年約 45 名が参加している。

教職員向け各種研修

教職員向け語学・国際化醸成研修として、業務英語能力向上研修、英語ビジネスライティング研修、グローバルキャリアスキル向上研修、中国語研修・韓国語研修の企画運営を実施してきた。また、海外研修として、海外研修（ア

テネオ・デ・マニラ大学)、海外研修（自主課題研究)、九州大学職員高度化海外研修（シドニー大学）の企画運営も実施してきた。

国際業務企画能力養成研修

九州大学の職員のうち、国際交流業務従事者または所属事務部の長が推薦する職員に対し、国際交流の意義や九州大学のアジア戦略等を理解させ、同時に、企画力を有する事務職員としての自覚を促し、実践的な業務遂行の基盤形成を図る。特に、国際交流関係業務に従事する職員としての資質向上のために必要な意識の醸成を重視する。2004（平成 16）年度から 2011 年度まで計 8 回実施した。